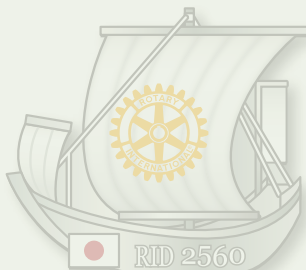


ガバナー月信



月信10月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② ガバナーエレクト研修セミナー
報告
- ③ 第5分区 IM 報告
- ④ 防減災セミナー 報告
- ⑤ 米山ガバナーエレクト事務所
開所式 報告
- ⑥ 世界ポリオデーによせて
- ⑦ 会員数報告
- ⑧ 地区主要行事予定(10月・11月)
- ⑨ 新入会員紹介・訃報
- ⑩ コーディネーターニュース
- ⑪ ハイライトよねやま



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度

高橋ガバナー事務所

〒950-8053
新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



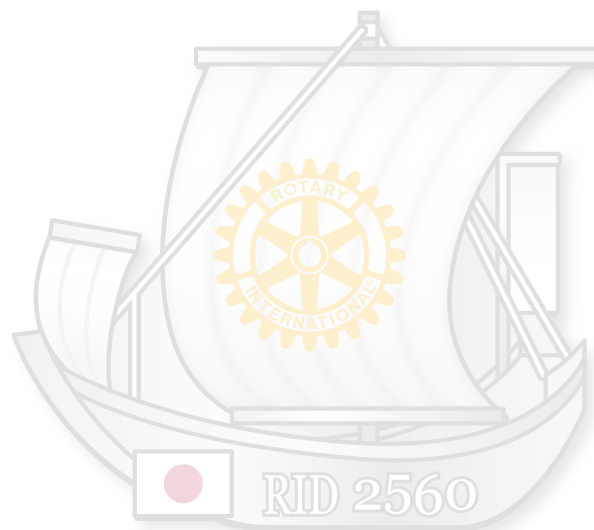
国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナー
高橋 秀樹 (新潟 RC)

8月の県北豪雨災害から、早くも2カ月近く経ちました。しかし、被災地の復旧・復興はまだまだこれからです。9月11日の地区諮問会議でこの件を話題にさせて頂き、被災地支援のため、各クラブに支援金のお願いをさせて頂くことになりました。会員の皆さまにおかれましては、それぞれ御判断の上、どうか御協力の程お願い申し上げます。また、山間部の被災地では、9月以降ボランティアの数が激減し、各種の作業の進捗が思わしくないようです。周囲にボランティアに意欲のある方がおられたら、ぜひお声掛け頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

さて、10月24日は世界ポリオデーです。ロータリーは、1979年以来途切れずにポリオ根絶活動を継続しており、昨年度までで総額21億米ドル以上を投下し、122ヶ国、30億人以上の子どもたちにワクチンを投与してきました。そして、個々のロータリアンがお金で寄付するだけでなく、現地でワクチン投与に直接従事する活動や環境整備も進めてきました。もうポリオは殆ど根絶されたという印象をお持ちの方もおられるかもしれませんが、アフガニスタンとパキスタンまで減っていたはずの感染者が、今年になってマラウイ、モザンビーク、そしてアメリカ合衆国ニューヨークで新たに確認されました。つまり、やはり感染者0までやりぬいていかないと、いつ感染が再拡大するかわからないのです。ロータリアンの皆様におかれましては、今後も引き続き粘り強くポリオ根絶活動に御協力いただきますよう、お願いいたします。

なお、2750地区東京三鷹RCの宮崎陽市郎ガバナーエレクトが、ロータリーのエンド・ポリオをアピールするため、北海道の宗谷岬から鹿児島県の佐多岬まで自転車で日本縦断をする計画を立てました。10月1日に北海道をスタートし、23日に鹿児島に到着する計画になっているようですが、10月9日には新潟市に、そして10月10日には糸魚川市に到着する予定だそうです。もしお見掛けすることがあったら、手を振るなど応援してあげてください。

また、10月は米山月間になっています。ロータリー米山記念奨学事業は、1952年に設立された奨学金事業に端を発しています。日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリーの良き理解者となる人材を育成するための事業です。これまでの累計奨学生数は2022年7月現在で22,875人、その出身国は世界129の国と地域に及びます。国内では民間最大の国際奨学事業です。学生が奨学生である期間は、世話クラブとの交流も行われ、有為の人材が成長していく様子を身近で見守ることができ、浄財が有効に活用されていることを実感できます。そして、奨学金受給期間終了後も、元奨学生は日本の各地区で学友会をつくって活動しているのみならず、海外でも台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル、スリランカ、マレーシア、ミャンマーで学友会を立ち上げてきました。奨学金を受給される期間が終わった後も、日本と世界を結ぶ「懸け橋」として活動してくれていると言えるでしょう。このような事業は、日本のロータリーの重要な活動として是非とも今後も発展していくことが望まれます。どうか引き続き皆様の御協力をお願い申し上げます。





ガバナーエレクト研修セミナーに参加して

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナーエレクト
米山 忠俊 (三条北)

秋冷の候、第 2560 地区の各クラブ・ロータリー会員の皆様には高橋ガバナーの下、ロータリー活動に意欲的に取り組んでおられますことに深い敬意と感謝を申し上げます。

さて私は、先般 9 月 5 日、6 日と東京でのガバナーエレクト研修セミナー (GETS) に妻と一緒に出席してきました。この二日間の研修で自らの役割への意識を高め、これから迎えるガバナー年度における責任を再認識して帰ってまいりました。また、妻もパートナー研修を受け、ロータリー活動やガバナー職について知るいい機会になったことと思います。

研修セミナーでは、素晴らしい講師の方々の基調講演を通してガバナーとしての役割と責任を深く学び、今後のロータリーの課題について深く考えました。また、二日間を通して六つのセッションを行いました。私はとくに、二日目にあった「ロータリーブランドのブランドとストーリーを広げる」という内容のセッションに参加し、ロータリーへの理解を推進するためには、行動人のストーリーを伝え広げる、そして自らも世界を変える行動人になることが大切であると学びました。

講師の佐藤芳郎 RI 理事からは 10 月 24 日の世界ポリオデーについての理解と協力要請のお話がありました。日本全国各地でポリオ根絶キャンペーンやイベントが開催されるように、努力してほしいとのお願いでした。

私の同期ガバナーエレクトの宮崎陽一郎 (東京三鷹 RC) が、世界の子供たちを守る・ポリオ根絶のメッセージを発信するためのキャンペーンとして自転車で北海道から九州まで日本縦断の募金活動を行います。新潟には 10 月 9 日到着、新潟市と糸魚川市で一泊し、11 日出発の予定です。佐藤芳郎理事からも、2560 地区の皆様によろしく、との協力要請がありました。

終わりに、今回ガバナーエレクト研修セミナーに参加して、大変勉強になったことは勿論ですが、さらに同期ガバナーエレクトとの絆が強くなり、ともに頑張ろうとの思いが深くなりました。また、妻と一緒にセミナーを受け学んだことで、より連帯感が増したようにも感じられます。

ご尽力いただきましたスタッフ関係者の皆様に心より感謝申し上げます、私のガバナーエレクト研修セミナーの参加報告とさせていただきます。



第5分区 IM テーマ 「イマジン地域をつなぐ 新しい可能性を想像しよう」

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 第 5 分区ガバナー補佐

品田 孝行 (柏崎 RC)

去る 9 月 3 日 (土)、第 5 分区 IM が柏崎市「市民プラザ」に於いて 150 名の出席者で開催いたしました。

コロナ感染第 7 波の最中での開催でした。開催するかどうかクラブ内でも賛否両論討議を重ねましたが、第 5 分区各クラブの会長様はじめ多くの皆様からの心強い後押しがあり開催の運びになりました。実行委員会では開催か中止かの揺れ動く中、感染対策を万全にして準備してまいりました。

本年度、RI 会長のテーマ「イマジンロータリー」、高橋ガバナー地区方針「再生、新生、共生」を受けて、IM 開催テーマは、「イマジン 地域をつなぐ新しい可能性を想像しよう」で講演会の演題は、「アニメで想像しよう新しい地域の可能性」です。

現代社会は、情報伝達機能が発達し世界中に張り巡らされたネットワークで瞬時に情報が入手できます。活字から画像へと情報伝達が進み活字離れに拍車をかけております。そこで、柏崎に来られアニメスタジオを開設された荒尾様に講演をお願いしました。荒尾様は、子供達に人気のある「ワンピース」やプリキュア等のアニメに携わっており、アニメによる自治体 PR、企業 PR、求人広告等、幅広く活躍されております。その動画は、ユーチューブでも視聴できます。ユーモアのあるトークとアニメ映像で、アニメでの発信の可能性を想像させ第 5 分区の皆様にご評価して頂いた講演会ではないかと思っております。

最後に今回無事開催出来たことに対し、第 5 分区ロータリアンの友情に感謝しその後コロナ感染者が発生した報告がない事が何よりの救いです。

ありがとうございました。





高橋年度 ロータリー防減災セミナー無事終了

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ロータリー地域協働ネットワークセンター
センター長 **清水 信博** (高田東 RC)

去る 9 月 17 日 (土) 長岡市立中央図書館講堂にて、今年度の防減災セミナーを無事開催する事が出来ました。

例年に無い多数の参加を頂きました。各クラブ連絡員の皆様を始め、ガバナー補佐の皆様、地区役員の皆様、そして各協力団体の皆様、総勢 55 名を超える参加でした。高橋ガバナーもご多用のところ、後半からご参加頂き、講評等頂きました。

この様に関心が高かったのは、一か月前に発生した県北水害を大きな危機感と捉えられたからだと推測されます。被災された第 1 分区クラブの皆様はもちろんの事、他のクラブの皆様にとっても「目の前に迫る有事」と感じられたのではないのでしょうか。

今回のセミナーのテーマはこの県北水害とロータリーとの関わり中心に添え、各方面から講話を頂きました。

第 1 部として、センターの顧問でもある鈴木パストガバナーより、中越大震災後の復興の様子と、この災害をきっかけに組織化された当センターの生い立ちや役割説明や、支援体制について講話を頂き、当センター長の清水が各クラブと当センターの役割の違いを説明させて頂きました。

また、その後、今回の県北水害で中心的な役割をされた須貝ガバナー補佐より経過報告を頂き、中越防災安全推進機構 野村様より県北水害のボランティア活動を通じた総括講演を頂きました。

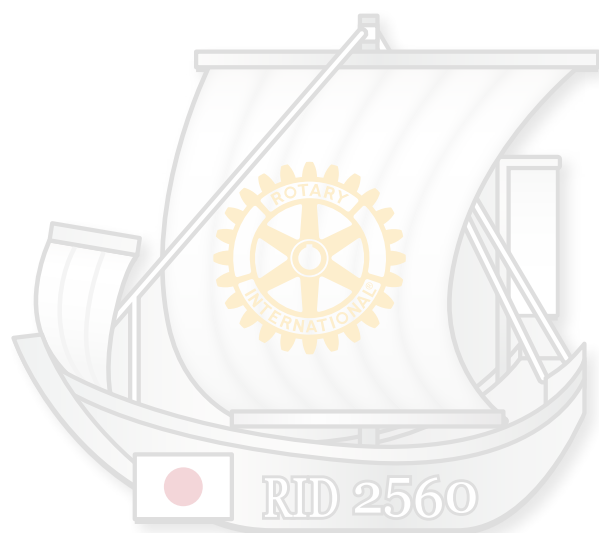


第2部としまして、参加された各協力団体の皆様、高橋ガバナーにもご参加頂きながらパネルディスカッション形式で各団体としての災害支援体制について各団体から熱く語って頂きました。

最後に高橋ガバナーより講評として、今回の県北水害の地区としての対応の状況説明やクラブと地区がより強固に繋がる必要性や他団体との協力体制の重要性などお話を頂きました。

災害は待ってくれない事を念頭に置き、この様なセミナーの一刻も早い開催が必要とのお話を頂き、来年度以降の開催時期の検討等は当センターの今後の課題と致します。

ご参加頂きました各関係各位の皆様にご感謝申し上げます、今年度防減災セミナーの事業報告とさせていただきます。





ポリオ、それに対し 『誰が』に値する生き方をしたい

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 寄付・資金・ポリオプラス委員会
高坂 光一 (高田 RC)

ポリオは 1988 年世界 125 ヶ国で 35 万人以上の新規症例を数えるウイルス感染症でした。主な感染ルートは糞便の混ざった汚水で、5 歳未満の子供が感染する確率が高く、四肢に麻痺・変形を出し治療薬はなく、現在も対症療法のみですが、ポリオワクチンによる予防は可能です。

ロータリーはその状態を解決し、世界中の子供たちがポリオにより将来を奪われない世界を目指すため、ポリオ撲滅（根絶）を最優先目標に掲げ全世界で活動し、2022 年現在野生株ポリオ常在国は、アフガニスタン、パキスタンを残すのみとなりました。しかし、日本を始め野生株根絶国の関心低下、人流増加、基本的衛生環境未整備、紛争、宗教問題、低識字率等様々な要因で、当初 2000 年に終える計画が未だ達成していない現状です。

私は縁があり、インド・パキスタンのワクチン投与活動に参加してきました。その時会った子供たちが、ポリオのない世界で笑顔に過ごせる日が一日も早く来ることを目指し、周りにその必要性を伝えるため、これからも活動を続けていきます。

以前イチロー選手が「結局言葉とは『何を言うか』ではなく『誰が言うか』に尽きる。その『誰が』に値する生き方をしたい」と語っています。少なくとも私たちロータリアンはポリオに関しては『誰が』に値する存在です。共に最優先目標であるポリオ根絶を目指し活動していきましょう。

10/21(金) 18 時～18 時半、BSN ラジオ「サロン・ド・かおり」でポリオについて出演します。



第 2560 地区 2022-23 年度 8 月末 会員数報告

R C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2022年 7月1日	8月末 会員数	うち女性	増減
第1分区 (9クラブ)	/	-	372	380	35	8
新発田	3	31.5%	88	89	0	1
村上	2	20.5%	38	39	9	1
水原	3	26.5%	33	34	1	1
中条	4	91.5%	44	47	3	3
新発田城南	3	21.1%	38	38	3	0
豊栄	3	17.4%	23	23	2	0
新発田中央	3	4.3%	45	46	4	1
中条胎内	3	52.8%	36	36	7	0
村上岩船	3	25.0%	27	28	6	1
第2分区 (9クラブ)	/	-	426	444	28	18
新潟	3	25.0%	79	88	2	9
新潟東	3	18.8%	63	64	8	1
新潟南	4	32.1%	108	112	4	4
佐渡	3	80.0%	5	5	0	0
新潟西	3	47.5%	38	40	2	2
佐渡南	1	12.8%	38	39	4	1
新潟北	4	30.6%	35	36	1	1
新潟中央	3	44.4%	18	18	0	0
新潟万代	3	52.4%	42	42	7	0
第3分区 (5クラブ)	/	-	89	92	5	3
新津	3	11.1%	18	18	1	0
村松	3	50.0%	10	12	0	2
白根	3	30.0%	30	30	1	0
新津中央	3	38.5%	26	26	3	0
阿賀野川ライン	3	0.0%	5	6	0	1
第4分区 (11クラブ)	/	-	350	362	25	12
三条	0	10.5%	55	57	0	2
燕	2	8.6%	33	35	2	2
加茂	3	6.3%	32	32	4	0
三条南	1	18.9%	35	37	2	2
分水	4	79.3%	29	29	4	0
見附	4	4.8%	21	21	1	0
吉田	1	3.6%	28	28	3	0
三条北	4	9.1%	54	55	2	1
巻	3	0.0%	25	26	3	1
田上あじさい	4	14.3%	6	6	1	0
三条東	1	5.6%	32	36	3	4

R C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2022年 7月1日	8月末 会員数	うち女性	増減
第5分区 (7クラブ)	/	-	288	293	26	5
長岡	3	73.9%	44	46	3	2
柏崎	3	2.4%	40	41	0	1
長岡東	3	26.9%	52	52	4	0
柏崎東	4	18.2%	43	44	3	1
栃尾	4	13.6%	21	22	1	1
長岡西	3	20.4%	49	49	3	0
柏崎中央	3	23.1%	39	39	12	0
第6分区 (6クラブ)	/	-	116	118	12	2
十日町	3	29.0%	31	32	4	1
小千谷	2	10.7%	28	28	4	0
雪国魚沼	4	19.2%	25	26	3	1
十日町北	3	0.0%	14	14	0	0
津南	4	25.0%	12	12	1	0
越後魚沼	4	16.7%	6	6	0	0
第7分区 (7クラブ)	/	-	313	316	22	3
高田	3	33.3%	70	72	4	2
直江津	3	28.8%	72	73	6	1
新井妙高	4	11.4%	35	35	1	0
糸魚川	0	68.3%	41	41	3	0
高田東	4	68.6%	35	35	3	0
糸魚川中央	3	55.6%	27	27	0	0
越後春日山	2	93.9%	33	33	5	0

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,954 人
8月末会員数	2,005 人
女性会員数	153 人
純増減会員数	51 人
My Rotaryアカウント登録率	29.0 %

※7月末からの訂正
7月末日会員数
燕RC【33名(うち女性2名)⇒35名(うち女性2名)】
第2560地区 1,993人⇒1,995人

地区主要行事予定

2022年9月27日現在

年	月	日	行 事	会 場	
地域社会の経済発展月間・米山月間					
2022年 (R4) 高橋年度	10月	1	(土) 第3分区IM (室賀G補佐・白根)		
		8	(土) 第1回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルオークラ新潟	
		8	(土) 第2分区IM (森田G補佐・新潟南) →延期	ホテルオークラ新潟	
		15	(土) 第1分区IM (須貝G補佐・中条)		
		22~23	(土~日) 全国学友会総会	鎌倉パークホテル	
		22	(土) 第7分区IM (本山G補佐・高田)	デュオ・セレッソ	
		23	(日) ライラ研修	新潟市新津地域交流センター	
		29	(土) 第6分区IM (富山G補佐・雪国魚沼)	ホテル坂戸城	
	29~30	(土~日) 米山記念奨学生親睦交流会	中越地区		
	ロータリー財団月間				
	11月	5	(土) 米山記念奨学生面接官オリエンテーション	ホテルオークラ新潟	
		5	(土) 米山記念奨学生学友会総会	ホテルオークラ新潟	
		12	(土) 高橋年度 地区大会1日目 / RI会長代理歓迎晩餐会	ホテルイタリア軒	
		13	(日) 高橋年度 地区大会2日目	ANAクラウンプラザホテル新潟	
		19	(土) ロータリー財団地域セミナー	神戸ポートピアホテル	
		20	(日) 第2回ガバナー会議	神戸ポートピアホテル	
20		(日) RI会長歓迎晩餐会	神戸ポートピアホテル		
20		(日) メジャードナー午餐会	神戸ポートピアホテル		
20	(日) 第2回ガバナーエレクト研修セミナー (GETS)、ガバナーノミニー研修セミナー (GNTS)	神戸ポートピアホテル			
21~22	(月~火) 第51回ロータリー研究会	神戸ポートピアホテル			
26	(土) R財団・米山合同メジャードナー感謝の集い 長期派遣学生選考試験 ローターアクトアジア第1ゾーン会議	ANAクラウンプラザホテル新潟 ホテルオークラ新潟			

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
水原	玉城 政徳	2022.7.25	第一生命保険株式会社 水原オフィス	オフィス長	生命保険業
新潟	高杉 直希	2022.8.02	(株)新潟博報堂 ビジネスデザイン局	局長	広告業
新井妙高	重野 次夫	2022.8.17	株式会社 日曹建設	代表取締役社長	建築
新潟東	長北 喜大	2022.8.19	(株)長北工務店	代表取締役	建築業
新潟	中山 真	2022.8.23	(株)新潟グランドホテル	代表取締役社長	ホテル
新潟	島本 春幸	2022.8.23	JAバンク新潟県信連	代表理事専務	農林水産金融
新潟	佐野 由香利	2022.8.30	(株)新宣	代表取締役	イベント・ディスプレイ業
長岡	菅原 秀昭	2022.8.30	(株)モルセラ すがわら接骨院	代表取締役	柔道整体師
三条南	関 博市	2022.9.05	株式会社 関保険センター	代表取締役	保険業
三条南	横山 慎	2022.9.05	PAP株式会社	代表取締役社長	ナーシングホーム管理運営
新潟	長谷川 久晃	2022.9.13	(株)ユアテック新潟支社	専務執行役員支社長	電気工事
新潟	梅澤 哲雄	2022.9.13	JA新潟電算センター	代表取締役社長	情報処理サービス



世界ポリオデー（ジャパン）ポータルサイトの活用をお願い



第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 桑澤 一郎（茅野）

「今年のポリオデーは、日本全国（ZONE 1 A,2,3）で各クラブや地区が一斉にイベントや活動を行うことで、ファンドレイジングと公共イメージ向上に繋がりたい」という佐藤 RI 理事の強い思いを受け、RRFC、EPNC、RC、RPIC が協力して、地区への協力依頼と広報を行うことになりました。

その一環として「WorldPolioDayJAPAN」というポータルサイトを6月に立ち上げ、ここを通じてポリオに関する必要な情報やクラブ、地区同士の情報共有の場を提供しています。

サイト内にあるコンテンツ（内容）は、「このサイトを見ればポリオについての理解や情報提供、共有ができる」という目的で、

- ①ポリオを「理解する」ための資料
- ②ポリオの「現状を知る」ための資料
- ③ポリオのことを「クラブ会員や関係者に説明する」ための各種資料
- ④クラブや地区での「活動計画を共有する」ための情報揭示
- ⑤「寄付を促す」ための情報提供
- ⑥フォトコンテストの案内
- ⑦ロゴの使い方ガイド

を内容として作成してあります。

既に今年のポリオデーは日が迫っておりますので、地区ガバナーや地区委員長、クラブ会長などに広くこのサイトを広報していただき、できるだけ多くのクラブや地区が世界ポリオデーにご参画いただくことはもちろんですが、次年度も同様の取り組みが予定されておりますので、次年度のためにも今から周知をお願いするものであります。

【World PolioDay JAPAN】 [世界ポリオデー（ジャパン）ポータルサイト](#)

The banner features the Rotary and WHO logos, the text "END POLIO NOW 行動しよう 世界ポリオデー", and a photo of a man holding a child. Below the banner, the text reads: "世界ポリオデーは10月24日（月）です。クラブやグループ（分区）、地区で実施する活動やイベントは、23日（日）24日（月）を中心とした日程をお決めいただき、実施して下さい。実施方法については、下記の情報や他地区の実施例などを参考にお決めいただき、概要が決まりましたらサイト右上の「計画提出」ページから7月いっぱいを目処に実施計画の概要をご提出下さい。提出された計画情報は皆さんで共有し、より多くのクラブ参加の一助とさせていただきます。"



～ストーリーテリングの力～



第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 服部 陽子（東京広尾）

「ビジョン声明が達成され、世界中の人びとがみんな笑顔で幸せになること」それは私たちロータリーが実現しなければならない大きな夢です。そのためには外に向けてロータリーを発信し、理解者を増やし、世界でよいことをする仲間の輪を広げていかなければなりません。それには私たち自身の感動の体験を語るストーリーテリングが効果的だと言われています。RPIC になって公共イメージ向上について勉強した時、いいストーリーテリングが相手の心へのインスピレーションとなり、相手に行動を起こさせるパワーとなるのだと聞きました。それは一体どんなストーリーなのだろうか？と常日頃考えていた私に、ストーリーテリングとは何かを実感できる機会が訪れました。

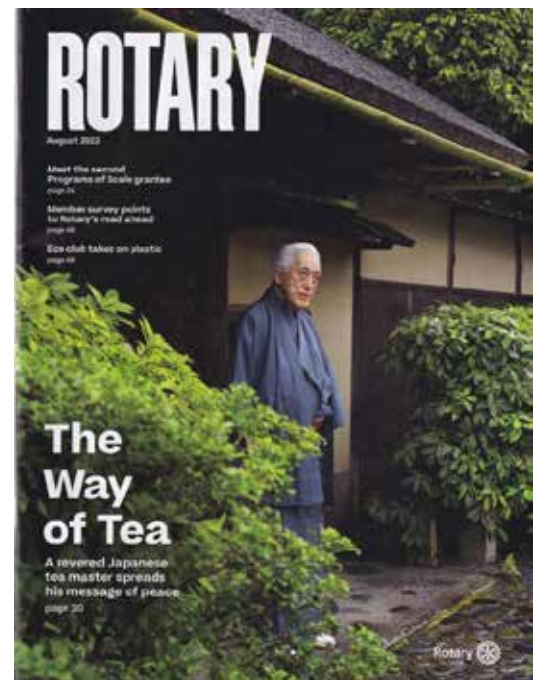
それは8月号の雑誌「ROTARY」を手にした時です。8月号の表紙を飾っていたのは、裏千家の前家元、元RI理事、京都ロータリークラブ会員の千玄室氏のお写真でした。優しさと厳しさを兼ね備えた深い眼差し、和服で日本の緑の中に佇む凛としたそのお姿は、ご自身が歩まれてきた99年の人生を物語るインスピレーションそのもので、私はしばらくその表紙に見入っておりました。そして中を開くと、「PEACE THROUGH A BOWL OF TEA」と題した記事があり、ご自身の第二次世界大戦の特攻隊での体験や、茶道、そしてロータリアンとしての人生について、11ページに亘って書かれていました。

「戦友から託された命のためにも、私は忍耐強く、よく生き、長生きして、自分の運命を全うしなければならない。」と語られ、茶道とロータリーを通じて世界平和を訴えて生きる人生に大きな感動と感銘を受けました。この記事を読んでいる世界の中のロータリアンが読んでいるのだ！と思うと日本人としての誇りさえ感じました。

翌月9月号の「ロータリーの友」でこの記事を読まれた方は多いと

思います。この記事は間違いなく世界中のロータリアンから見た日本のロータリアン

のイメージを大きく向上するものであり、ストーリーテリングの真髄そのものであったと言えます。私自身この記事を読んで勇気と希望をいただき、「ロータリアンであってよかった。自分もこれからの人生をよく生きていかなければならない。」という思いを強くいたしました。



© 2022 Rotary International.



ウクライナ支援への感謝とご報告



第1地域 ロータリー財団地域コーディネーター 飯村 慎一 (宇都宮 90)

2022年6月5日、ヒューストン国際大会が3年振りで開催され、コロナウイルス感染の影響がある中、日本からは約500名弱の方が参加され、米国、フィリピンに次いで多い参加数でした。開会式では、恒例の国旗入場が行われましたが、ウクライナ国旗が入場するや否や、会員が総立ちとなり、会場は割れんばかりの拍手が鳴り止まず、又、その旗手は声援に応じて暫く壇上で旗を振り続けておりました。ウクライナ戦争後、世界のロータリアンが一体となり支援しようとして立ち上がりましたが、この会場で“心を1つにし(TOGETHER) 行動しよう(TAKE ACTION)”というロータリーのビジョンの一端を体験することができ、感動の瞬間でした。翌日、マッキナリーRI会長エレクトは、ウクライナのための災害救援基金への寄付が1,500万ドル(約20億円)に達したことに感謝の意を述べました。今年の3月から4月末までの僅か2ヵ月間で、これ程の多額の寄付が集まるロータリーの世界的ネットワークの凄さを、改めて認識いたしました。

9月にガバナーエレクト研修セミナー(GETS)が開催され、ロータリー財団管理委員の三木明氏が次の様に挨拶されました。「多くの方々にウクライナ支援のためにご寄付をいただいておりますが、その中のあるロータリアンの方をご紹介致します。九州(福岡)の方で、4月にウクライナのための災害救援基金のことを知り、直ぐに25万ドルを寄付していただき、アーチ・クランフ・ソサエティ(AKS)の会員になりました。円に換算しますと3,000万円以上となり、それも全額、その基金の寄付へ指定されました。心より感謝申し上げます。」為替レートは3月が1ドル116円、4月には122円と急激に円安に向かった時でしたが、その様な事は意ともせず、ウクライナ救援のためご寄付をされました殊勝なロータリアンに頭が下がる思いでした。

この様に皆様のご支援により日本の寄付総額は334万ドル(約4億5千万円)となり、この数値は、世界の寄付総額1,500万ドルの約23%を占めております。日本の世界に対する会員数比率は7%前後ですので、これは日本のロータリアンが献身的にウクライナ救済に協力された結果の表れであります。心より感謝申し上げます。

これからも引き続き、ロータリー財団をご支援頂きますようよろしくお願い申し上げます。



1. 理事会と評議員会をハイブリッド形式で開催

8月23日に第35回理事会を対面とZOOMのハイブリッド形式で開催しました。第34回理事会は対面開催でしたが、昨今の感染者増加の状況を鑑み、今回はハイブリッド形式となりました。当日は、小沢一彦名誉理事長/役職理事候補者指名委員長と、全国から17人の理事、2人の監事が対面出席、オンラインの出席が14人で、計34人の出席となりました。若林紀男理事長が議長として進行役を務め、第1号～第9号の全ての議案につき、原案通り承認可決されました。

【第35回理事会の主な議案】

評議員後任候補者/理事・監事候補者/奨学金給与規定一部改定/2021年度事業報告/2021年度計算書類/2022年度収支予算書一部修正/2022年度専門委員選任 ほか

また、9月12日には第14回定時評議員会を同じく対面とZOOMのハイブリッド形式で開催しました。昨年9月の定時評議員会は新型コロナウイルスの影響により主にオンラインでの開催となりましたが、今回はハイブリッド形式での

開催となりました。当日は、全国から評議員12人、役職理事7人と監事1人が会場参加、16人の評議員と監事1人がオンライン参加しました。定款により、評議員会の議長は、出席評議員の中から選ばれることになっており、第2580地区の上山昭治評議員が議長に選出されました。

上山議長の進行で、報告事項として、①理事会決議報告 ②職務執行の状況報告③2021年度事業報告が資料に基づき説明され、続いて理事会から上程された「後任評議員の選任」「理事・監事の選任」「2021年度計算書類承認」など6議案が諮られ、全て原案通り承認可決されました。

評議員会での理事選任を受けて、同日付で第36回理事会書面決議が成立し、以下の役職理事が選定されました。

理事長：若林紀男氏(2660)

副理事長：滝澤功治氏(2680) 相澤光春氏(2780)

常務理事：井原 實氏(2770) 駒井英基氏(2740)

常務理事：神野重行氏(2760) 田中久夫氏(2840)

2. ジャパンフェスティバルで米山をPR!

8月20日、21日、モンゴルにおける日本関連最大イベント、ジャパンフェスティバルモンゴル(JAPAN FESTIVAL IN MONGOLIA 2022)が国立遊園地のホワイトロックセンターで開催され、モンゴル米山学友会会長のウドワル・セデバザルさん(2010-12/下野上三川RC)をはじめとする13人の米山学友がブースを出展し、米山奨学金や学友会についてPRをしました。また、トブ県バヤンデルゲル郡にある学生寮に図書を寄贈する“図書館プロジェクト”のために本の寄付を募ったところ、多くの方が本を寄付してくださいましたとのことです。

2022年は日モンゴル外交関係樹立50周年に

あたり、モンゴル日本センターとJUGAMO(モンゴル帰国留学生の会)の協力の下、記念事業として様々な文化イベントが開催されています。



3. まもなく米山月間資料が届きます (9/21 発送)

10月はいよいよ米山月間です。今年も米山月間資料を全国の皆さまへお届けします。

毎年恒例の『豆辞典』は、米山記念奨学事業についての情報がほぼ網羅されている小冊子。会員数分お送りしますので、1人一冊お手元にお持ちください。豆辞典を使って米山奨学事業を説明するためのパワーポイントは、9月中旬に当会HPで公開します。そのほか「クラブ米山記念奨学委員長の手引き（寄付マニュアル合

冊）」「2021年度事業報告書」「2021年度決算報告」を送付します。追加資料のお申し込みは、同封の「追加資料申込書」に記入の上、お送りください。



限定ネクタイ&スカーフの頒布チラシを同封しています！

4. 寄付金速報 — 10月は米山月間です —

前年同期比

+ 0.9%

普 - 0.6% 特 + 3.9%

8月までの寄付金は、前年同期と比べて0.9%増（普通寄付金:0.6%減、特別寄付金:3.9%増）で、約250万円の増加とな

りました。ここ数年での会員数全体の減少により、当会の普通寄付は減少傾向にあります。少しづつ状況が落ち着くにつれて、対面での例会開催など、これまでの日常が戻ることを期待しています。1年に1度の米山月間、今月もよろしく願いいたします。

5. スリランカの未来へつなぐ

8月10日、国際ロータリー第2620地区米山学友会会長の青山チャリットさん(2006-08/静岡日本平RC)が、同学友会を代表して母国スリランカ北部のアヌラダプラ・ヒドーガマにあるマダワラガマ・カレッジ小学校を訪問し、日本円で約15万円分の文房具を寄付しました。

同学友会にとって3度目となる教育支援ボランティアの活動先となったスリランカは今、歴史的な経済危機に直面しており、地方には経済的な理由から必要な文房具などを購入出来ない子供たちがたくさんいるそうです。そこで、スリランカ北部地方にある、生徒数155人の小学校の子供たちのために文房具を届けることにし



ました。ガソリン不足により現地までの道のりは非常に大変だったそうですが、喜んでいる子供たちの笑顔を見たら、それまでの苦労も吹き飛んだとのことでした。

青山チャリット会長は、「我々学友会にできることは限られていますが、その中でも小学校の子供たちに文房具を手渡すことができました。しかしスリランカには、医療機器の不足など、困っている子供たちがまだまだたくさんいます。今後もロータリアンの方々にご支援とご協力をいただきながら、可能な限りの支援をしていきたいと思っております」と述べました。

